

平成29年度事業計画書

I 事業計画策定の基本方針

国際経済交流財団は、グローバリゼーションの進行するなかで、日本と世界各国の相互理解を深めるための情報発信の重要性を認識し、国際フォーラムの開催や、ジャパンスポットライトの発行を通じて、重要な国際経済の課題についての情報発信を行ってきた。

本年度は、特に次の二点に留意して、これを行っていくこととする。

第一に、地政学的リスクに如何に対応するかという点で、例えば、広がる所得格差を背景としたポピュリズムの台頭、米国のトランプ政権の政策の動向、その外交政策や経済政策がもたらすリスク、緊張関係が予想される米中関係、イギリスのEU離脱の影響、特にそれがもたらす他のEU加盟国への影響などである。2017年は、新興国だけでなく、このような先進国における地政学的リスクの高まりに注目していきたい。また、近隣地域においても、北朝鮮の現政権がもたらす軍事的リスク、韓国の今後の政治動向など、地政学的リスクが急速に高まりつつある。このような地政学的リスクの高まりは、日本の経済やビジネスにも大きな影響を及ぼす可能性があり、状況の客観的把握に努めると同時に、これらについての日本の考え方を適切に情報発信することにより、これらの問題への対応について、世界の日本への理解を高めることが重要である。

第二に、財政金融政策の制約のある中での構造改革による成長戦略の重要性である。成長戦略を実行していくに際して、所得格差の問題、高齢化や地球環境問題、エネルギー問題など、世界共通のチャレンジに中長期的に取り組む必要がある。

日本では、アベノミクスの第三の矢による構造改革（女性や外国人の労働参加の促進、コーポレートガバナンスの改革）が、着実に進行中であるが、これについての諸外国の理解を高めると同時に、日本と同じように、構造改革の重要性に直面している国、地域の同様の取り組みについて、日本側も理解を深めることが重要である。従来より研究を深めて来た自由貿易協定の在り方についても、現在世界に広がりつつある反グローバリゼーションの動きにどのように対応するかを念頭におきつつ、このような広い視野の中で捉えて行く必要があるだろう。特に、自由貿易の成果を国内産業が十分裨益するためには、国内経済の構造改革が必要であり、それを円滑に行うために、我々の事業は、国際的なピア・プレッシャーを適切に作り出すものであることに留意すべきである。

世界は、グローバリゼーションの進行するなかで、益々経済・外交政策の課題がシンクロナイズする傾向にある。こうしたなか、各国間、各地域間の情報交換、意見交換は益々重要である。特に、近隣諸国である韓国、中国とは、相互理解の増進が、今後極めて重要との観点から、新たに、「日・中・韓政策対話」という新しい枠組みを2014年に開始し、継続しているところである。

このような課題について、解決の方向性を見出すうえで極めて重要な諸外国有識者と我が国有識者とのインフォーマルな対話を促進することとし、かつ人

材育成を図る観点から、未来を担う若手の研究者、学生等もインボルブした国際経済交流事業を推進する。また、当財団における財政状況は、極めて厳しい状況になっていることから、最大限の効果が得られるように、事業の重点化や実施方法の改善に努めていくこととする。

Ⅱ 事 業 項 目

1. 経済関係国際交流事業

「日欧フォーラム」、「日米フォーラム」、「日アジア太平洋フォーラム」、「日・中・韓政策対話」の開催、並びに、産業、貿易事情、地球環境問題及びこれらの政策等についての関係者の相互理解、意思疎通等を図るため調査研究交流を行う。

2. 日本産業貿易の海外広報事業

グローバルな経済、社会に関する正確な情報を基とした様々な有識者の意見を迅速、的確に世界の読者に提供するため、英文による海外向け情報誌を発行し、諸外国と我が国との意見交流を促進し、グローバルな課題解決に向けて共通の理解を図ることとする。

3. 国内への情報発信と対話の推進

グローバル化の深化にともなって、国内の政治・経済と海外の政治・経済が密接なつながりを持つ中で、国内の政治・経済にも大きな影響を及ぼす世界の地政学的危機や、高齢化、地球環境エネルギー問題、主に先進国が直面する国内経済の構造改革など、中・長期的課題に世界各国がどのように取り組んでいるか、国内に対しても情報発信を促進し、国内と海外の対話を円滑に進める努力が必要である。

このため、以下の4点を、重点を絞りながら推進する。

- 1) 日本語版ホームページの充実
- 2) ジャパンスポットライト日本語版の作成
- 3) 「グローバル化におけるリスク管理のあり方」研究会開催
- 4) 適宜、国内向け政策セミナー開催